

会議名		第1回学校運営協議会 議事録	
場 所	大阪府立すながわ高等支援学校2階会議室		
日 時	令和4年7月8日（金） 10：00～11：30		
目 的	学校運営協議会は、保護者等との連携協力、学校運営の方針についての協議及び承認、保護者等の意向の反映のために設置する、大阪府教育庁の附属機関である。		
次 第	（1） 校長挨拶 （2） 学校運営協議会委員紹介 事務局職員紹介 大阪府立すながわ高等支援学校学校 運営協議会 実施要項確認 会長、副会長選出 （3） 協議 ・ 令和4年度学校経営計画について ・ 今年3月に卒業した6期生の進路状況と進路指導について ・ 今年度の広報活動の取組み ・ 校内研修の取組み （4） 報告 ・ 教科書選定について （5） 意見交換 まとめ （6） 校長挨拶		
学校運営協議会	会 長	四天王寺大学教育学部教育学科教授	土口 千恵子 様
	副会長	株式会社カネシン オートボックス	辻 昭宏 様
	委 員	泉州中障害者就業・生活支援センター	斉喜 祐輔 様
	委 員	株式会社サクセス 自立支援推進室長	河本 妙子 様
	委 員	泉南市 総合政策部 危機管理課	宮本 剛 様
	委 員	すながわ高等支援学校PTA会長	阿曾沼 友子 様
	校 長	すながわ高等支援学校校長	白井 公仁
		すながわ高等支援学校事務局	9 名

要約 令和4年度学校経営計画の計画状況について確認されたこと及び協議テーマについて、各立場から実りのある意見交換がなされた。

協議テーマについてのご質問・ご意見

○令和4年度学校経営計画の説明では、学校情報化優良校の認定をめざすなど、今年度の具体的な取組みと学校経営計画の概要について共有することができた。また、最近あった通信障害で携帯電話を使えない状況下、公衆電話を使えない若者がたくさんいるとニュースで見た。どこに公衆電話があり、どうやって電話をかけるかを生徒たちが勉強する機会があってもよいのではないかと安心・安全に過ごせる学校・学習環境づくりの観点からの助言をいただくことができた。

○6期生の進路状況等の取組みについては、進路だよりをもとに3月に卒業した6期生の進路状況の内訳について説明があった。例年より企業就労者数が減少している理由は、新型コロナウイルス感染症の影響で採用や実習の受け入れを縮小している企業が増えたことに加え、コロナ禍による生徒の経験不足が挙げられる。卒業後すぐに企業就労するのではなく、福祉サービス事業所等で長く働き続けるための力をしっかり身につけてから企業就労をめざす生徒が増えたとの報告があった。同じような状況は大学等でも起きており、経験不足に陥ると、自分自身で未来を拓いたり、チャレンジしたいという気持ちがしぼんでしまう。改めて現場実習など、実際に体験して学ぶ機会の大切さについて確認することができた。また、日常的に手伝いをすることが仕事の幅を広げるきっかけになるなど、家庭でできる支援についても共有した。

○広報活動の取組みについては、感染拡大防止の観点からここ数年オンライン中心の活動となっていたが、今年度は生徒が活躍できる機会を多く設け、対面・体験形式での開催を予定していると報告があった。9月には、3日間（1日2回）のオープンスクールを企画している。また、卒業生やその就労先にも協力を依頼し、インタビュー動画の撮影を開始しており、今までと違った形での広報活動にも取り組んでいくことを確認した。また、中学校・中学部教職員向けの高等支援学校研修、学校説明会等の広報活動を積極的に取り組んでいくことが共有できた。

○校内研修の取組みについては、今年度も同和問題についてPTA との合同研修が計画されていることが確認された。また、8月には全教員対象とした阪南市にある和泉学園での研修を予定していることが報告された。それに対して、研修の目的は何かとの質問があった。社会復帰をめざして支援を行っている和泉学園では、どのように環境を整え、どのような支援をしているのかを学びたい。また支援や配慮が当たり前になると、社会復帰した際に対応できなくなってしまうことや、問題行動を起こした際の支援方法など教育現場と同じような課題についてそのアプローチ方法や具体的な支援を学ぶ機会とするなど、研修の目的を改めて確認した。また、研修の際には、問題行動の未然防止をどう行うかという観点を持つことが大切であるご意見をいただいた。

○令和4年度教科書選定については、実際に使用している教科書を確認していただいた。

○保護者の意見書については提出がなかった。

次回開催日 令和4年11月予定

作成者 大阪府立すながわ高等支援学校 首席 松浦 恵 （令和4年7月8日作成）